補足資料

令和４年のアユ遡上数回復要因

令和４年の多摩川におけるアユの推定遡上数は、昨年と比較して７倍強となり、回復の兆しが見られた。要因として以下のことが考えられる。

〇一昨年は、令和元年 10 月の台風 19 号に伴う大雨とその後の濁水の継続により、アユの産卵場が泥に覆われるなど荒廃したこと、加えて親魚が少なく産卵期間が短かったため、遡上数が少なかった。

〇昨年は、産卵場の環境も良好で、親魚の生き残りも多く産卵期間も長かったこと、加えて産卵場造成や親魚放流の取組み成果もあり、遡上数の増加につながったと考えられる。

〇昨年の産卵期後半　特に 12 月の降雨量が多く、親魚の産卵場への降下、孵化仔魚の東京湾への降下が促進された。

〇遡上期（4 月）の雨量が多く、アユ稚魚の遡上が促進された。

これらの影響から、今年の遡上数は多くなったものと考えられた。

※他河川の遡上状況　　関東では昨年と比較すると多い傾向

ex)荒川、利根川・・・ (独)水資源機構の HP から

アユの生態

・アユの寿命は１年

・産卵期は秋、ふ化した仔アユは海に下り、春に川を遡上、川の上流～中流域で成長して、秋に川をくだり、産卵する

・多摩川での主な産卵場は河口から 15－25km の区間

・産卵川底の好適な条件は粒径 5～30 ㎜のきれいな砂利